

1. 内政

- ・15日、コルマン議会議長は、議長就任45日を経過し、同期間の議会の活動は概して効果的であったとしつつ、ドニエストル沿岸への出入国管理施設設置に関する法案は準備不足であった旨発言。
- ・16日、ティモフティ大統領は、最高安全保障会議を招集し、軍の規律の問題に関し協議。出席したマリヌツァ国防相は、最近1か月で3人のモルドバ軍兵士が死亡した問題を受け辞意を表明。ティモフティ大統領は、同相及びグリーン検事総長に対し警告した上で、9月の同会議において再発防止策を提示するよう指示し、現時点で同相が辞任する必要はない旨発言。
- ・18日、モルドバからの独立を問う国民投票の実施を求め署名活動を実施したガガウズ自治共和国の市民グループの代表は、同投票はビリニウスでの東方パートナーシップ・サミットの前に実施される必要がある旨発言。

2. 外政

▼バセスク・ルーマニア大統領の来訪(17日)

- ・15日、バセスク・ルーマニア大統領は、ウングニ(モルドバ)・ヤシ(ルーマニア)間のガスパイプラインは2014年に完成し、2015年にはルーマニアからモルドバへ天然ガスの供給が開始されるであろう旨発言。
- ・16日、バセスク大統領は、EUはキプロスの失敗を繰り返さないとして、沿ドニエストル問題が解決しない限りモルドバのEU加盟はありえない旨発言。

・17日、ティモフティ大統領は、モルドバを訪問したバセスク大統領と会談し、モルドバの欧州統合路線、エネルギー安全保障等の共同計画に関し協議。バセスク大統領は、モルドバは歴史的観点から欧州統合の道以外に選択肢はないとして、ルーマニアはモルドバの欧州統合路線を今後も支持する旨表明し、2014年度にはモルドバの学生6,000名のための奨学金を提供する予定である旨発言。

・17日、レアンカ首相及びコルマン議会議長は、それぞれバセスク大統領と会談し、両国関係、ビリニウス・サミットの展望、モルドバ国内の政治情勢及び両国議会間協力等に関し協議。

3. 沿ドニエストル

▼「5+2」者公式会合の開催

・7月16、17両日、ウクライナのOSCE議長国のもと本年3回目の「5+2」者公式会合がウィーンのオーストリア外務省内において開催。会合参加者は、「環境保護及び天然資源利用分野における共同行動計画案に関する議定書」に署名し、次回会合を10月3日に開催することで合意。会合後、議長を務めたデシツァOSCE議長国特別代表は、移動の自由、ドニエストル川にかかる産業用ロープウェーの撤去、環境・経済、治安維持機関の協力及び教育問題に関し協議された旨述べ、沿ドニエストルのシュタンスキ「外相」は、モルドバがドニエストル沿岸に出入国管理施設を設置した場合、沿ドニエストルは交渉から撤退する可能性がある旨言及。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)